壱岐南校区自治協議会だより

みなみかぜ

第99号

2014年(平成26年)2月15日発行

発　行　者：壱岐南校区自治協議会
発行責任者：本　庄　敏　雄
〒819-0032
福岡市西区戸切2-18-20
(壱岐南公民館内)☎811-0336

ー数字で見る壱岐南ー
《1月度ミニバス利用状況》

運行日数28日　運行台数28台

運行便数	364便
総利用人員	2,265人
平均利用人員	80.9人
1便あたり	6.2人
12月より	0.4人減

お出かけはミニバスに乗って!

さぁ HUG をはじめましょう ～防災・減災講座～

自主防災推進会では、公民館のエンジョイライフ事業との共催で、1月29日「防災・減災講座～災害時避難所運営」を行いました。これには、自主防災推進会のメンバー、エンジョイライフ受講生など34人が参加しました。

市防災・危機管理課防災係の平野敬太さんから趣旨説明を受けたあと、防災士で構成された「博多あん・あんリーダー会」のメンバー5人の指導で、避難所運営ゲーム(HUG＝ハグ)に取り組みました。

参加者は5グループに分かれ、地震発生から2時間経過、壱岐南小学校を避難所と想定し、約200人の被災者受入対応を行いました。

避難してくる人々の事情がこみ入っていて、要介護の方、障がいのある方、高齢者、ペット同伴の方、外国人、車の中で待機したい家族…等、どのグループもスペースの割り振りに苦労していました。

また、仮設トイレの設置、飲料水・食糧の確保と配布、炊き出し所の開設など、実際面では本当に難しい局面が予想される内容でした。

まとめの反省でも、事情のある人への対応の仕方などあらかじめ検討しておくべき、という意見がありました。このような状況では、一人でも多くの人がボランティア精神を発揮して、いろんな場面に対応協力していかないと、難所運営はうまくいかないと感じました。

博多あん・あんリーダー会の江崎俊子さんは「今日のゲームに正解はありません。もしかしたら体育館が開いていないかもしれない、そんなときどうするか。その場その場で臨機応変に対応しなければなりません。それを学んでください」と述べられました。

今秋の自主防災訓練では、「避難所運営訓練」を実施する予定です。(自主防災推進会)

わが町より他に我を生かす町なし
―いきみなみ人尊協研修会―

いきみなみ人権尊重推進協議会は、男女共同参画をテーマにした理事・運営委員研修会をいきみなみ男女共同参画推進会議と一緒に、1月27日壱岐南公民館でおこないました。

「男女で共に創る、活力ある地域をめざして」というタイトルで、福岡県男女共同参画センター「あすばる」の前館長・中嶋玲子さんに講演いただきました。

「国は『男女共同参画社会の実現は21世紀のわが国社会を決定する最重要課題』と位置づけている。男女共同参画は女性だけの問題ではない。みんなで学ばないといけない」との第一声から講演が始まりました。

保守的な農家に育ち、農家に嫁ぎ、夫の父母・祖父母と同居しながら町会議員に挑戦し、トップ当選。2期目の任期中に町長へ立候補。九州初の女性町長になったという経歴の持ち主です。自らの豊富な経験をおりまぜて、2時間一気に男女共同参画を進めることの大切さを語られました。参加者はそのパワーにまず感嘆!

「男女共同参画は女性にも男性にも必要。男性の平均寿命が短いのは、強さを期待され、厳しい社会環境にさらされて自殺が多いことも一因。これからは男女が共に責任を担っていかなければ立ちゆかない。」

「高齢化はどんどん進み女性が経済の担い手になり、老若男女みんなが地域や社会を支えていく必要がある。昔は『男らしく・女らしく』という考え方があったが、これからは『自分らしく』と考えていかないといけない。」

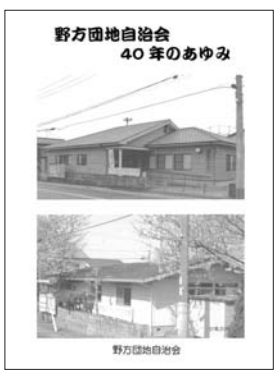
「経済的・精神的・生活の3つの自立は、大人はもちろん、子どももできるよう育てるのは親の責任。性別役割分担は男性から家事・育児の楽しみを奪っている。『人権』とは『人間の権利』、みんなから認められて幸せに生きていく権利。」

最後に「わが町より他に我を生かす町なし。子どもを育てやすい環境、年をとっても楽しく過ごせる、女性の力を出していける町をつくってほしい。女性は『何もわかりませんが』ではなく『慣れていないけどがんばります!』と役員を引き受けましょう。男性は『応援するからがんばって!』とエールを送ってください。」と結ばれました。

(いきみなみ人権尊重推進協議会)

◆おめでとう40年
＝野方団地自治会＝

野野方団地自治会は、今年自治会設立40年を迎えます。これを記念して、このほど「野方団地自治会40年のあゆみ」を発刊されました。(＝写真)内容は、設立当初からの出来事を記した年表、役員・組長等の一覧、自治会員の転出入の状況などの資料で、自治会のアウトラインがつかめるようになっています。年表によると、1974年に80戸が第一次入居し、自治会結成は11月10日とありました。



また、主要行事や防犯・防災への取組、各部だより、サークル活動紹介のほか、会員からの寄稿もあって、自治会の方にとっては懐かしく感じられるのではないでしょうか。

約1年かけて5人の編集委員が中心となって作成されました。資料収集などに苦労されたことがしのばれます。

『発刊にあたって』のなかで、熊谷高信会長は「思いやり、助け合って生きていきましょう。この『終の住みか』で」とよびかけています。40年にわたってこの地域で子育てをし、暮らしてきた皆さんが、ますます団結してより良い野方団地にされることを願ってやみません。

小学校PTA講演会

壱岐南小学校PTA成人教育委員会では、「今、子どもたちのために大人が始めること」という内容で成人教育講演会を開きます。地域の皆さまも、ぜひご出席ください。

☆日　時　2月21日(金)
　　18時45分開会
☆会　場　戸切人権の
　　まちづくり館
☆講　師　福永宅司さん
※学校を駐車場として開放します。

往還往来

バスの中で乗客が両替を頼んだところ、5000円札だったので運転士が「どなたか5000円くずせる人いませんか」と呼びかけた。すると、バッグを開けたり財布を引っ張り出したりする人がいた。そしてすぐ「ありますよ」と言う声▼私ももちろん財布を出したが、呼びかけに応える人が多かったなぁと嬉しく感じた。運転士も「ご協力ありがとうございます」とお礼を言った▼一期一会というと大げさだが、たまたまそこに居合わせた人との関係は難しい。例えば、エレベーターに乗ろうと走ってくる人をちょっと待つ。あるいは後ろの人のためにドアを押さえておくなど、されると嬉しいのではないだろうか。見ず知らずの人にも「ありがとう」と笑顔になる▼逆に不愉快な思いをすることもある。映画館で携帯電話がなったとき。電車の中で大多数の乗客がスマートフォンをいじっているのを見たときなどだ▼世の中いろんな人がいる。お互いの事情などわからなくても、想像力を働かせてスマートな世の中にしたいものだ。(T)

これからの主な行事

○2月16日(日)
　親善ニュースポーツ大会
○2月21日(金)
　小学校PTA講演会
　戸切人権のまちづくり館
○2月25日(火)
　人尊協理事・運営委員会
○3月9日(日)
　西区環境フェスタ

シニア囲碁大会

老人クラブ連合会は、1月26日に壱岐南囲碁サークルの協力を得て壱岐南公民館で『シニア囲碁大会』を行いました。

今年で11回目となる大会の参加者は24人でした。実力によって3つのグループに分かれ、お昼をはさんで約6時間にわたって熱戦が続きました。

結果はつぎのとおりです

《Aグループ》
優　勝　桑野　正史
準優勝　久保田純也
第三位　鳥羽　忠衛

《Bグループ》
優　勝　高橋　俊仲
準優勝　太居　英雄
第三位　竹村　徳弘

《Cグループ》
優　勝　吉川　正直
準優勝　池田　邦夫
第三位　渡辺　勝美

ミニバスに乗らないと

2月5日、試行運行中の橋本駅循環ミニバスに乗ってみた。

10時25分発のミニバスに乗客は2人。華林堂病院・壱岐郵便局を経て野方営業所へ。既存のバス路線を西へ走る。福岡リハ整形外科・リハビリテーション病院は玄関先まで乗り入れ。

生松台・野方台団地を通って野方南3区へ抜ける。道は細く右折左折が続く。開拓四つ角を下ってウッディテニスコートから右折し、藤ヶ丘集会所をめざし坂を上る。集会所を過ぎて今度は下り坂。既存のバス路線に出て、タケシマ整形外科の玄関先へ進入する。野方営業所を経由して橋本駅に到着し、37分間のミニバスの旅は終わった。この便の乗客は11人だった。

運転士の西条慎吾さんは次のように話してくれた。

「ミニバスが本格運行できるように願っています。この時間帯はまあまあですが、夕方以降の乗客はとても少なく、正午前後の運行がないなど改善の余地があると思います。私たちも頑張りますが、地域の方のさらなるご利用をお願いします。」

ミニバスの試行運行は5月31日まで続く。利用状況は1面の「数字で見る壱岐南」のとおり。本格運行実現のため、ミニバスを利用しよう。

駅にぎわいプロジェクトにご協力を！
―橋本駅―

地下鉄橋本駅では地域との連携を図るために「駅にぎわいプロジェクト活動」を実施しています。その活動の一つとして、地域の情報を駅で発信するため、写真を募集しています。

校区の中で「自慢できる風景や人・行事・店等」「帰省した方が故郷に帰ってきたことを感じられる風景や人・行事・店等」の写真を橋本駅コンコースに掲示します。また、交通局のホームページにも掲載する場合があります。皆さまのご協力をお願いいたします。

◎**締　切　2月28日（金）**
◎**応募先　橋本駅駅長事務室**
◎**注　意**
①人物や店については、駅に掲示される、またはホームページに掲載されることの了解を得てください
②写真1枚ごとに撮影日時・場所・内容等わかる範囲で添付してください
③他のコンテスト入賞作品はご遠慮ください
④写真の著作権は交通局に帰属します
⑤写真は原則お返ししません
⑥プリントの場合はL判以上でお願いします
⑦メールの場合は matubara.k01@city.fukuoka.lg.jp までお問い合わせは
⑧お問い合わせは
橋本管区駅長・松原敬治まで
電話（894）7800

みちしるべ

女川いのちの石碑
千年後の命を守るために

いきみなみ人権尊重推進協議会は、昨年12月1日発行の公民館だよりに「千年後の命」というコラムを掲載しました。

東日本大震災による津波で大きな被害を受けた宮城県の女川中学校の生徒たちが、あの日を後世に伝えるために自分たちにできることを話し合いました。その内容は①絆を強める②教科書に載せる③石碑を建立するというものでした。

その集約ともいえる「女川いのちの石碑　千年後の命を守るために」という石碑が建てられたという新聞報道がありました。（朝日新聞2013年12月4日）記事によると、女川中学校の生徒は町内21ヶ所の津波到達地点に石碑を建てることを決め、その費用約1千万円を集めるために募金活動をはじめたそうです。そして11月23日に最初の一基が女川中学校に建てられたとありました。

石碑には、生徒たちの千年後の人たちへのこんなメッセージが刻まれています。「大地震が来たらこの碑より上に逃げてください」「悲しみで泣く人が減り、笑顔あふれるまちになっていると信じています」

ある生徒は「建てて終わりではなく、今からはじまるのです」と話しました。

私たちは、もう東日本大震災を忘れてはいないでしょうか。募金箱を見かけることも少なくなり、「がんばろう！東北」の旗も見あたりません。

そんなとき、修学旅行先を被災地に変えた修猷館高校の元校長（現筑紫女学園中学・高校校長）、中嶋利昭さんの記事が目に留まりました。（朝日新聞2014年1月26日）

中嶋さんは、津波にのみこまれた宮城県名取市の閖上地区に行き、その惨状を見たときに旅行先を変更しようと決めたそうです。被災地を自分の目で見て、日々の暮らしが当たり前ではないことを実感してもらいたい、という思いからでした。

もうすぐあの大地震から3年になります。約1万6千人に上る犠牲者、今も仮設住宅で暮らす被災者、福島第一原子力発電所の爆発によって暮らしも未来も変えられてしまった人々のことを決して忘れてはいけません。

（いきみなみ人権尊重推進協議会）

小学生大活躍
―百人一首を楽しむ会―

2月1日、恒例のいきみなみ男女共同参画推進会議主催『百人一首を楽しむ会』が壱岐南公民館で開かれました。今年の参加者は小学生から高齢者まで総勢32人で、他校区からの参加もありました。

野方南2区の村松秀一さんが読み手を務め「田子の浦にうち出てみれば白妙の…」と読み上げると、壱岐南小学校の5年生たちは「学校でもやってるよ」と、すばやく手を伸ばして札を取っていました。5つのグループに分かれ1回戦。取った札の数でグループを再編し2回戦。グループの中で、取った札の数が多い人が優勝です。

試合後は、男女共同参画推進会議委員手づくりのごはんと豚汁をいただき、お腹も心もいっぱいになった『百人一首を楽しむ会』でした。

男女共同参画推進会議は、このような文化的行事を通して、地域の交流と男女共同参画への理解が深まることを願っています。

（男女共同参画推進会議）

◆いきみなみ文壇◆

新調の　春着の裾の　躾糸
孫の名の　しかと書かれし　冬帽子

（橋本ニュータウン　福田　萬三）

子どものひろば

★子ども会★遊友ランドに参加して★

1月19日に、西区子育連創立30周年を記念したイベントがありました。
ジャグリングショーを見たり、わりばし鉄砲や、ドングリこまを作ったり、スポーツちゃんばらや、竹まとあて、紙ひこうきとばしをしました。中でも一番印象に残っているのはおばけ屋しきで、とてもこわくて泣いてしまいました。
でも、とても楽しい1日になって良かったです。

壱岐団地南　森　耕音

私は、1月19日に創立30周年記念事業子ども会・遊友ランドに参加しました。
ここでは、ジャグリングショーや、飛行機飛ばし、そして、お化け屋敷などがありました。
最初はジャグラーさんによるジャグリングショーがあり、いろんな技を見せてくださいました。
その後各班に分かれて会場内を回りました。
飛行機飛ばしでは各自自分で飛行機をつくって、誰が一番飛ぶかを競い合いました。お化け屋敷ではジュニアリーダーの方々が本格的なお化けになってとてもこわくて迫力のあるお化け屋敷でした。その他にもたくさんの体験をしてとてもいい思い出になりました。

野方団地　岩井　真心

編集後記

PM2・5、ノロウイルス、インフルエンザが各地で猛威をふるっています。そしてもうすぐ花粉症も登場することでしょう。いま、季節ははっきり春へ、と動き出しています。

自治協議会も今年は11年目となり、さらに安心・安全な壱岐南校区づくりをすすめていかなければなりません。高齢化率が市より10ポイント高い私たちのまちですが、高齢者の方だけでなく、若者にも子どもにも、もちろん大人自身にとっても住みよいまちにしましょう。

「みなみかぜ」は本号で99号となり、来月100号という節目を迎えることになります。ここまで続けられたのも皆さまのご支援のおかげです。ありがとうございます。

これからも「住みよいまちづくりをすすめる」広報紙として頑張ります。